

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第17回会合

ご注意:

- ご参加いただいた方はすべて議事録にお名前とご所属が掲載され公開されます。
- ご発言の際は以下をご了承の上ご発言ください。
 - 本会合での発言内容はすべて録音・録画されたうえで公開されます。
- ビデオをオンにされますと、ミュートしていても顔映像が録画公開される場合があります。

日時: 2022年4月18日(月)17:00-19:00

参加者(五十音順・敬称略):

場所: オンライン開催

司会進行: 本田聖さん

資料:

1. 2022年事前会合募集要項案(清書版)
2. 設立趣意書案
3. 国内のインターネットガバナンス関連活動の組織化案
4. 一般社団法人定款案
5. 参考: (igf2021:372) プログラム委員会の進め方(案)

アジェンダ:

1. 本日の打合せの目的確認 [5分]

- IGF2023ホストである日本政府としての準備状況の進捗報告および共有
- MAG会合の報告および共有
- 2022 秋イベント(名称未定)
 - 実施運営体制について
 - セッション公募について
- NRI組織枠組み・仕組みの素案について
- ユース活動の方針提案について
- チーム定例会合の運営方法について(議長/司会、運営規則を定めるか、等)

2. 前回議論の振り返り [10分]

第16回会合の概要[資料]:

- IGF2023ホスト(政府)としての検討状況報告
 - エキスパートグループが設立され、3月末に米国ニューヨークでIGFの在り方についての議論を行うことになっている。遠隔で参加する予定。
 - 国連事務総長のロードマップ、コモンアジェンダ、2025年に予定されているWSIS+20などを念頭に置いた議論がなされる見込み
 - ウクライナの状況で、オープンで開かれており分断のないインターネットの価値が図らずも実証されたと思う。
 - 民主主義のためのインターネットを強調するという流れが強まっている
- IGF MAGメンバーからの報告
 - 当日河内さんが所要により欠席のため割愛
- 秋イベントについて
 - プログラム委員会の守備範囲について、提案を資料として作成する予定(本田)
 - プログラム委員会の状況(上村)
 - 当初手を挙げたのが2名で、前回経験者に声を掛けた結果11名が構成員となっている。

- ステークホルダーバランスやジェンダーバランス向上のため今後も引き続き委員構成を充実させていく。
 - 企画セッションを担える人に委員になってもらうなどの形もありか。
 - プライベートセクターが手薄
 - テックがJPRS、JAIPA、JPNICみたいな感じなので、こんな感じでよいのかと感じている
- 3月17日に会合を開催し秋会合の全体像を検討
 - 重要事項は募集要項に含まれている
 - 公募セッションと活発化チームが企画するセッションとセミナーを組み合わせる
 - 英語によるセッションを受け付けることとした
 - 全体テーマを設定すべき
- 大枠をどうするかについての明確な結論は得られず
 - いつ開催するか
 - 開催日は1日か2日か
 - 会場や開催方式をどうするか
 - 公募の出方を見てからでもよいのでは、という意見もあった
 - 公募にあたり、どこまで全体像の構成を決めるか、が検討事項の1つ
- 活発化チームレベルでの結論が必要な事項
 - 会合の名称
 - 会合全体のテーマ
 - イベント開催形態:ハイブリッド
 - プログラム委員会の所掌範囲+イベントロジチームをどうするか
 - 時期:10月中旬(17日以降)から後半が妥当ではないか
 - 主催・後援:実施主体人が誰か分かるようになっているとよい
 - 英語セッションの通訳要否
- 参加者からのコメント
 - 海外の専門家を入れたセッションが1つくらいあるとよい→活発化チーム企画セッションとしてもよいので。
 - 日本人でセッション企画をまとめる人が欲しいと要求してもよいのでは。→準備段階は日本語で、当日登壇者が英語だけで議論するのは可能、と取れる表現にする。
- 全体テーマ
 - 候補の提示があった。
 - どんな提案でもスコープに入るよう、範疇を狭めないようなテーマとすべき。(堀田)
 - 事前イベントの骨子がテーマなので、どんな提案でも受けられるようにテーマを設定するならテーマは不要なのでは。(小畑)
 - 事前会合というより年次会合という位置づけとした方がよいと思う。(前村)
 - 前回会合で、グローバルIGFの国内版ではなくて、日本独自色を出してよいとなったと思う。(堀田)
 - 前回会合で、グローバルな課題は企画セッションで拾い、ローカルな課題を提案型セッションに反映させると整理した。提案募集

をするかどうかは今のままだと無理そうなので、1会合分先延ばしにするのはありだと思う。(上村)

- 一度行った議論を蒸し返す必要はないと思う。組織化の議論は別途やることでよいのでは。(加藤)
 - IGF 2023に向けたアドバルーンを上げようとしているのが現状で、できる範囲からまずやり、スモールスタートだがその先は拡大するのが希望。(本田)
 - 今回実施した手続きや議論の進め方が今後の年次会合のひな型になるが、ずっとこのような形でやるのか。(小畑)
 - グローバルな議論は企画セッションでやり、ローカルな議論を公募するのであれば、具体的なテーマを決めるべき(小畑)
 - インターネット・ガバナンスの会議があるので来てくださいと説明し、インターネット・ガバナンスって何を話すのかと問われたときに、同語反復ではない形で、こういうことを話すよ、と伝えられるようなテーマでよいと思う(上村)
 - 何でもIGFと言えるようなテーマを作るのと、IGFってこんなもんだという具体的なテーマを言って、何かあるのでは、と持ちかけるやり方と2つあると思うが、日本の状況だと後者かなと思う。(小畑)
 - プログラム委員会に持ち帰って、できれば小畑さんも参加して議論したい。(本田)
 - テーマを持ち帰ってプログラムで決めることはしたくない。(上村)
 - 前回プログラム選定した際、ステークホルダーがカバーされていないという話があったが、イベント全体で代表されていけばよいということになった。今回もそうなるのか、それとも、個別のセッションにもステークホルダーバランスをもう少し求めることになるか。(上村)
 - 主催が活発化チームだと、年次会合は変だ。上手な名前を考えたい。(堀田)
 - 蒸し返しの議論が続いている気がするので、いくつか案をメーリングリストに出して選んではどうか。(加藤)
 - テーマについては、プログラム委員会で案を出しているのだから、次回会合で決めることになるか(上村)
 - 会合名については私が案を3、4考えてメーリングリストの上で議論できるようにしたい。(前村)
- 組織化
 - 定款の記載事項について、前村より説明した。
 - スピード感を持って進めた方がよい。4月中には法人を設立するスケジュールも視野に入れて、枠組みを早めに確認できれば。(加藤)
 - Japan IGF, IGF-Japan, IGCJをどう清算するかを記載すべき(上村)
 - 事務局機能と理事会は完全に分けた方がよい(小畑)
 - 理事長や事務局長にあまり負担がかからないような仕組みがよい(加藤)

3. 宿題の進捗確認 [5分]

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チームtodo一覧表 を参照のこと

4. IGF2023ホスト(政府)としての検討状況報告 [5分]

5. IGF MAG報告[5分]

- 4/5および4/11開催のMAG会議について
 - 4/5資料
 - 4/11資料

6. 秋イベント(事前会合/本会合)について [30分]

- 推進体制/プログラム委員会の守備範囲について
- セッション募集要項について
 - イベント名
 - テーマ
- 活発化チームレベルでの結論が必要な事項
 - 会合の名称
 - 会合全体のテーマ
 - イベント開催形態:ハイブリッド
 - プログラム委員会の所掌範囲+イベントロジチームをどうするか
 - 時期:10月中旬(17日以降)から後半が妥当ではないか
 - 主催・後援:実施主体が誰か分かるようになっていないとよい
 - 英語セッションの通訳要否

7. NRI組織枠組み/仕組みについて [30分]

8. ユース活動について[10分]

9. チーム会合の運営について(議長/司会、運営規則を定めるか、等)[10分] 活発化チームの議長を決める必要がある。

10. 本日の議論を受けたTodo確認 [5分]

- 秋イベント

イベント名称は3つの案が出され、参考までに会場参加者のコンセンサスはiであった。引き続きメーリングリストのラストコールにかけることとする。

i. 日本インターネットガバナンスフォーラム2022 ~IGF2023 日本開催を見据えて

ii. 日本インターネットガバナンスフォーラム2022 ~2023年日本開催を見据えて

iii. 日本インターネットガバナンスフォーラム2022

テーマ:会合の場では決められなかった。メーリングリスト505番を見たうえで、メーリングリストで議論して1つに決めることとする。

i. インターネットって誰のもの？

ii. 今こそ知るべきインターネットの話題:デジタルデバイドからウクライナ危機まで

iii. 今、改めて問われるインターネットの自由

プログラム委員会枠組みについて:以下B案にする方向性B案を主体とするが、追加タスク案をMLで議論する

- i. A案:ステークホルダーエンゲージメント機能、イベント事務局機能をプログラム委員会の外に出す
- ii. B案:ステークホルダーエンゲージメント機能、イベント事務局機能をプログラム委員会に内包する

言語について:英語についてどうするかは継続議論

- NRI組織枠組み

次回5月9日会合で採択すべくML上で議論する。

- チーム会合の運営:

会合では特に何も決まらなかった

チャーターでは議長については定義されていないが、チャーターを変えることで定義する可能性が示された。

9. 次回打合せについて[5分]

- 次回アジェンダ(たたき台)
 - 秋イベント
 - NRI組織枠組み
- 次回打合せの開催時期(3週間おき開催が原則)
 - 候補日時:5月9日(月)17時

10. その他 [5分]

-

以上